

令和3年度 クレドアワード


知事賞一覧 (15件)



現場部門

新たな子育て支援策を立案、事業化	健康福祉部 子ども家庭課	企画主査 朝日 優喜	企画主査 増井 博康
新型コロナウイルス感染拡大の防止	健康福祉部	新型コロナウイルス感染拡大防止対策チームおよび応援職員	
「地域の足」を早期に復旧	土木部 福井土木事務所	企画主査 小畑 貴史	


挑戦部門

高校生の利用者目線で小浜線を活性化	地域戦略部 嶺南振興局二州企画振興室	主査 東出 堯大	主事 永井 汰知	主事 野原 和也
GODIVA JAPANと共に福井ブランドを発信	交流文化部 ブランド課	主任 朝井 啓子	主事 杉本 光紀	
積極的疫学調査によるコロナ感染拡大防止	健康福祉部	健康福祉センターの全職員および応援職員		
電子クーポンふく割の発行	 産業労働部 産業政策課	総括主任 角 光泰	主任 村尾 健志	企画主査 前 宗徳
ダム建設現場を観光資源に活用	土木部 吉野瀬川ダム建設事務所	企画主査 坂本 弘文	主事 上坂 健太郎	


協働部門

河川流域全体で「海ごみ」の発生防止	安全環境部 環境政策課	主任 倉谷 雅史	主事 前田 佳菜子	
全国チェーン店と連携した食の全国発信	農林水産部 流通販売課	主任 橋本 大樹	主任 天谷 美都希	

創意工夫部門

オンラインで園芸の楽しさを発信	農林水産部 農業試験場	主任 坂本 浩		
全国が注目！書籍になった「覚え違いタイトル集」	 教育庁 図書館、生涯学習・文化財課	主任 井藤 久美	主任 宮川 陽子	主任 鷺山 香織

効率化部門

電子決裁・文書管理システムの導入	 総務部 情報公開・法制課	総括主任 吾田 昌則	主任 森下 優紀	
とにかく使ってみよう！RPAを全庁展開	地域戦略部 統計情報課	企画主査 向川 友博	企画主査 柘谷 浩和	企画主査 内田 亨
航空レーザ計測データ活用による林業DXの推進	農林水産部 福井農林総合事務所	主査 海野 真		

現場部門

■ 新たな子育て支援策を立案、事業化

健康福祉部 子ども家庭課

企画主査 朝日 優喜 企画主査 増井 博康

■ 新型コロナウイルス感染拡大の防止

健康福祉部

新型コロナウイルス感染拡大防止対策チームおよび応援職員

■ 「地域の足」を早期に復旧

土木部 福井土木事務所

企画主査 小畑 貴史

新たな子育て支援策を立案、事業化【現場】

タスクフォース

(1) 候補者

健康福祉部子ども家庭課	企画主査	朝日	優喜	チームリーダー
	企画主査	増井	博康	サブリーダー

(2) 成果

- ・子育て応援の新たな支援策を検討する「新たな子育て支援策検討タスクフォース」を結成し、子育てに関する新たな支援策を検討。（打合回数16回）
- ・男性トイレにベビーチェア・おむつ交換台設置するパパ応援事業や、全天候に対応できる室内の遊び場オープン等、新たな視点での斬新な事業を多数提案。順次事業化していく。
- ・検討の際は、独自に子育て支援団体への聞き取り調査や、作成した事業案に対するWebアンケートを実施するなど、生の声を収集分析し、求められるニーズに的確に応える支援策を検討した。

(3) クレドの実践ポイント

- ・行政の子育て施策に、精通していない他部局職員をメンバーに招き、県民に近い視点の意見を集約（協働）
- ・聞き取り調査やアンケート等を実施し、県民の声を事業へ反映（現場）



新型コロナウイルス感染拡大の防止【現場】

（１）候補者

新型コロナウイルス感染拡大防止対策チーム
および応援職員

10月23日の日経新聞
「医療」「ワクチン」「検査」3視点での順位付け

コロナ対応ランキング
全国1位

（２）成果

・令和2年度よりチーム員を中心に、新型コロナ感染防止に長期にわたり奮闘。令和3年度は、チームふくいを結集し、県独自の「福井モデル」を確立するとともに、ワクチン接種や病床確保等、新たな対策を実施した。令和3年度の主な対策は以下の通り。

- ①ワクチン接種 …県営の接種会場を設置するなど接種体制を強化。全国上位のワクチン接種率88%を実現
- ②3センター集約…①入院調整センター②受診相談センターに加え③陽性者・接触者サポートセンターを設置
3センターに保健所の業務を集約し、負担軽減と、利用者の利便性を向上
- ③病床の確保 …医療機関や宿泊療養施設（野戦病院含む）等、治療療養体制を強化し、1016床を確保

（３）クレドの実践ポイント

- ・医療関係者との週1回のやりとりを継続し、現状把握や課題対応等状況に応じた適切な判断により、先手先手の対策につなげた
- ・「おはなしはマスク」「うっかりリスト」など、受け入れられやすい言葉を使った感染予防を呼びかけた



「地域の足」を早期に復旧

～短期間でえちぜん鉄道の運行を再開、県道の通行止めを解除～

【現場】

（1）候補者

福井土木事務所 道路第一課 企画主査 小畑 貴史

（2）成果

- 令和3年3月、永平寺町藤巻において県道沿いの斜面が崩壊し、県道及びえちぜん鉄道が不通になった。当初はえちぜん鉄道の運行再開等に約2か月を要する見通しだったが、連日、現場でえちぜん鉄道や工事業者等と協議を行い、無人機械を最大4台に増強、夜間工事の実施、えちぜん鉄道との同時作業など、安全でより早い施工方法で実施したことにより、新学期が始まるまでの約1か月でえちぜん鉄道の運行再開、道路の通行止解除を実現した。

（3）クレドの実践ポイント

- 連日、関係者全員が現場に集合し、現場で打ち合わせを行うなど、迅速且つ適切な判断につなげた点【現場】
- 現場で築いた信頼関係をベースに、早期復旧という一つの目標に向かって作業を進め、作業期間を大幅に短縮した点【協働】



復旧工事終盤の県とえちぜん鉄道の同時作業

挑戦部門

- 高校生の利用者目線で小浜線を活性化
地域戦略部 嶺南振興局二州企画振興室
主査 東出 堯大 主事 永井 汰知 主事 野原 和也
- GODIVA JAPANと共に福井ブランドを発信
交流文化部 ブランド課
主任 朝井 啓子 主事 杉本 光紀
- 積極的疫学調査によるコロナ感染拡大防止
健康福祉部
健康福祉センターの全職員および応援職員
- 🏆 特別賞 ■ 電子クーポンふく割の発行
産業労働部 産業政策課
総括主任 角 光泰 主任 村尾 健志 企画主査 前 宗徳
- ダム建設現場を観光資源に活用
土木部 吉野瀬川ダム建設事務所
企画主査 坂本 弘文 主事 上坂 健太郎

高校生の利用者目線で小浜線を活性化【挑戦】

タスクフォース

(1) 候補者

嶺南振興局二州企画振興室	主査	東出	堯大	主事	永井	汰知
	主事	野原	和也			

(2) 成果

- ・小浜線を考える高校生ワークショップを沿線の5校全てで開催
(お年寄りに優しい回転式吊革など、改善・工夫の提案があった。)
- ・ワークショップの結果を受け、地域の若者で構成する若者委員会を開いて意見交換した結果、R4年度からは沿線官民で組織する小浜線利用促進協議会の中で実践活動に取り組む予定。
- ・10月末からの取組みは毎週SNS発信。(右上にQRコード)
高校生提案はこちら → [小浜線を考える高校生ワークショップ結果報告書](#)
PR動画はこちら → [小浜線PR動画\(2本\)](#)



(Twitter)



(Facebook)



(Instagram)

(3) クレドの実践ポイント

「県の役割＝市町への補助」との意見が多い中、実情を1番知る高校生の利用者目線に着目し、現場でのオープンな議論で賛同の輪を拡げて官民一体の取組みに繋げることで、沿線の利用促進事業の新しい進め方を示した。

【小浜線高校生ワークショップ(若狭東高校1回目)】
11月11日に若狭東高校の1回目のワークショップが開催されました！
若狭合同庁舎でのワークショップということもあり、初めは少し緊張した様子でしたが、おもしろい意見がたくさん出て、非常に有意義な時間でした😊

午後4:14 · 2021年11月24日 · Twitter Web App

GODIVA JAPANと共に福井ブランドを発信【挑戦】

(1) 候補者

交流文化部 ブランド課 主任 朝井 啓子
主事 杉本 光紀

(2) 成果

- ・ジェローム・シュシャン社長の永平寺に関する記事をきっかけに、GODIVA社へアプローチ。知事によるセールスを重ね、[ふくいそば×チョコレートマリアージュキャンペーン](#)、越前漆器のケースに入った「バロタン」など、[福井ブランド×GODIVAのコラボレーション](#)が実現した。
- ・コロナ禍であっても、約4割の蕎麦店で来店者数が増加し、約9割のお客様が満足するなど、コロナ禍における飲食業界を支援すると同時に、県民が県内で楽しめる福井ブランドの新しい楽しみ方を発信した。

(3) クレドの実践ポイント

- ・福井ブランドを県外へ発信するだけでなく、コロナ禍に配慮し、飲食業界の支援と同時に、福井ブランドの新しい楽しみ方を県民へ発信
- ・福井ブランドと、GODIVAの両者の魅力を広く伝えられる提案を考え、一緒に発信することによる効果の最大化に奮闘



社長を「フクイブランド・グランシュバリエ」に委嘱

積極的疫学調査によるコロナ感染拡大防止【挑戦】

(1) 候補者

健康福祉センターの全職員および応援職員



(2) 成果

- ・ コロナ陽性者に対する積極的疫学調査に、健康福祉センター全職員と応援職員が総力を挙げて対応
- ・ すべての陽性者から発症前2週間分の行動経過等を徹底して聞き取り、感染経路や濃厚接触者、感染時の状況、変異株の特徴等を的確に把握（感染経路不明の割合 4.0%（全国平均 65.4%））
- ・ 得られた知見（感染経路が特定可能な陽性者の約95%がマスクをしていない場面での感染 等）が、「おはなしはマスク」の徹底など先手先手の感染対策実行に寄与

(3) クレドの実践ポイント

- ・ 「いつ、どこで、誰から感染したか」までしっかり把握し、全国と比べ極めて低い感染経路不明率を達成（挑戦）
- ・ 感染拡大状況に応じ、市町や団体から保健師や通訳の応援を受けるなど、患者急増や外国人患者発生にも対応できる調査体制を構築（協働）



電子クーポンふく割の発行【挑戦】

(1) 候補者

産業労働部産業政策課 総括主任 角 光泰
主任 村尾 健志
企画主査 前 宗徳

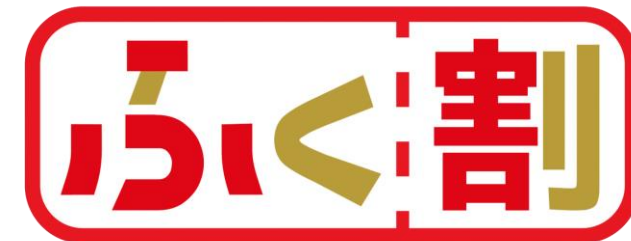


(2) 成果

- ・景気悪化時の消費喚起に定番のプレミアム商品券に代えて、電子クーポン「ふく割」を全国の自治体に先駆け開発・発行した。発行に時間手間がかからず随時の発行が可能で取扱いにおいて非接触に貢献したほか、コロナ禍に苦しむ業種に絞ったピンポイントの事業者支援も実現した。
- ・その結果、32万超のユーザーが登録、県内で88億円超の消費を喚起して、コロナ禍に苦しむ事業者を支援した。

(3) クレドの実践ポイント

- ・先行事例のない中、運営体制の構築や使い易いシステムの開発に向けて関係者と頻繁に調整し、様々な困難を乗り越え短期間で発行に漕ぎ着けた点（挑戦）
- ・事業者、利用者の目線に立ち双方の声を聞きながらシステムの改善、運用の見直しを継続的に行った点（現場）



福井県の消費応援キャンペーン

ダム建設現場を観光資源に活用【挑戦】

(1) 候補者

土木部吉野瀬川ダム建設事務所 企画主査 坂本 弘文
主事 上坂 健太郎

(2) 成果

- ・ダム建設現場の魅力を民間旅行会社等にPRし、観光資源としての活用を勧めた結果、福井県発注の建設現場としては初めて、ダム見学コースが民間旅行会社のツアー行程に組み込まれた。
- ・令和3年11月に旅行会社2社が6ツアーを実施し、計138名が参加した。
- ・ツアーは好評（満足した人が9割）であり、令和4年度分も現時点で9ツアーの依頼を受けている。
- ・ニュースに取り上げられるなど、土木事業を広く周知するとともに、防災意識を啓発した。

(3) クレドの実践ポイント

- ・県発注工事で事例がない初のツアー実現に向け、関係者の理解を得るために、何度も現場に足を運んでいただくなど、奔走した(挑戦)
- ・県観光連盟、市観光協会、越前市、旅行会社と調整・連携してツアー化を実現した(協働)



協働部門

■ 河川流域全体で「海ごみ」の発生防止

安全環境部 環境政策課

主任 倉谷 雅史 主事 前田 佳菜子

■ 全国チェーン店と連携した食の全国発信

農林水産部 流通販売課

主任 橋本 大樹 主任 天谷 美都希

河川流域全体で「海ごみ」の発生防止【協働】

(1) 候補者

安全環境部 環境政策課 主任 倉谷 雅史 主事 前田 佳菜子

(2) 成果

- ・例年の「クリーンアップふくい大作戦」について、今年度から新たに『海ごみの発生防止』を共通テーマに、九頭竜川上流から下流域までの一斉清掃を流域の5市町（大野市、勝山市、永平寺町、福井市、坂井市）と連携して企画・実施
- ・河川流域の市町が一体となって清掃活動を行うことにより、海ごみは沿岸地域だけの問題ではなく内陸地域の住民も自分自身のこととして向き合う意識を醸成（実施期間 4～7月、参加者数 417人）

(3) クレドの実践ポイント

- ・ごみ問題はみんなで考え、削減に取り組む課題であるとの思いから、流域5市町に働きかけ、協力体制を構築（協働）
- ・企業や商工会、漁協、観光協会など様々な団体等の参加協力を得て、広域的な清掃活動の枠組みを実現（協働）



全国チェーン店と連携した食の全国発信【協働】

(1) 候補者

農林水産部流通販売課 主任 橋本 大樹
主任 天谷 美都希

(2) 成果

- 全国に480店舗ある飲食チェーン「くら寿司」と連携し、県産ブランド魚「ふくいサーモン」の全国販売を初めて実施した。
- くら寿司による新聞の折込み広告1400万部のほか、店舗のぼりやSNSにより全国に情報発信。
- 想定以上の販売があり、仕入れ約20トン分（約50万皿分）は完売。次年度の取扱いにもつなげた。
- また、首都圏の食品スーパー三徳（35店舗）、クイーンズ伊勢丹（14店舗）、日本最大規模のモールであるイオンレイクタウン等（43店舗）で福井フェアを開催するなど、民間事業者と連携し連続的にふくいの食をPR・販路拡大につなげた。

(3) クレドの実践ポイント

- 全国展開する飲食店チェーンとの初連携により、県産ブランド魚を「知る」だけでなく実際に「食べる」機会を全国に提供
- 全国チェーン店の広報媒体を活用することで、知名度アップを効果的に実現（協働・挑戦・効率化）




創意工夫部門

■ オンラインで園芸の楽しさを発信

農林水産部 農業試験場

主任 坂本 浩

 **特別賞** ■ 全国が注目！書籍になった「覚え違いタイトル集」

教育庁 図書館

主任 井藤 久美 主任 宮川 陽子

教育庁 生涯学習・文化財課

主任 鷺山 香織

オンラインで園芸の楽しさを発信【創意工夫】

(1) 候補者

農業試験場 園芸研究センター 主任 坂本 浩

(2) 成果

- ・コロナ禍により、[園芸LABOの丘（園芸体験の提供施設）](#)の来園者が伸びず、体験メニューも縮小する中、オンライン（LINE、Twitter、YouTube）を活用した園芸の楽しさ発信を企画。
- ・[「園芸LABOの丘」アカウント](#)を開設し、栽培収穫の豆知識や料理情報等、多彩な情報発信により、[園芸ファンを拡大するとともに、園芸LABOの丘・園芸研究センターの知名度向上に貢献した。](#)

- ✓   登録者数 約350人
- ✓  再生回数 約65,000回、動画投稿数 約200本（1月31日時点）
（[農林水産省チャンネル「BUZZ MAFF」](#)や、[農tuber「とまたろう」](#)とのコラボが実現）

(3) クレドの実践ポイント

- ・コロナ禍における体験施設の在り方を再検討し、予算をかけずにSNSやYouTubeの発信を強化（挑戦・創意工夫）
- ・野菜や果樹、草花の栽培方法をわかりやすく解説
農水省・農tuberも注目、コラボも実現（創意工夫・協働）



全国が注目！書籍になった「覚え違いタイトル集」【創意工夫】

(1) 候補者

図書館 主任 井藤 久美 主任 宮川 陽子
生涯学習・文化財課 主任 鷺山 香織



(2) 成果

- 図書館カウンターで出会った覚え違いを収集・整理した図書館HP「覚え違いタイトル集」を書籍化
 - 書籍「[100万回死んだねこ](#)」（「100万回生きたねこ」覚え違い事例に由来した書名）は **8万部のヒット**（R4.1現在）
 - 「[Library of the Year 2021](#)」**優秀賞**を受賞（先進的な活動を行う図書館に贈られる賞）
- ニュースや新聞等に多く報道され、司書業務の認知、図書館の知名度向上に貢献
 - HP ページビュー 16,331回 → 86,485回（R2→R3の10～11月比） 約5倍
 - 覚え違い投稿件数 5件 → 58件（R2→R3の10～11月比） 約12倍

(3) クレドの実践ポイント


- 調査・相談カウンターでの対応困難な事例を職員間で共有・蓄積するだけでなく、実務的かつ興味深いコンテンツとして発信した点【創意工夫】
- 発信の際は、単なる娯楽に留まらず、司書業務の解説や気軽に相談できることなど図書館に関心・親しみを持たれる内容とし、利用促進につなげた点【創意工夫】



利用者さんの覚え違いに爆笑し、司書さんの検索能力にリスペクト。SNSでも話題沸騰！あなたはいくつ答えられる？

【おい桐島、お前部活やめるのか?】
【とんでもなくクリスタル】
【下町のロボット】【蚊にピアス】
【人生が片付ときめきの魔法】
【昔からあるハムスターみたいなお本】
【八月の蟬】【からすのどろぼうやさん】
【ねじ曲がったクロマニヨンみたいなお名の村上春樹の】

効率化部門

 **特別賞** ■ 電子決裁・文書管理システムの導入

■ とにかく使ってみよう！ R P Aを全庁展開

■ 航空レーザー計測データ活用による林業DXの推進

総務部 情報公開・法制課

総括主任 吾田 昌則 主任 森下 優紀

地域戦略部 統計情報課

企画主査 向川 友博 企画主査 柘谷 浩和 企画主査 内田 亨

農林水産部 福井農林総合事務所

主査 海野 真

電子決裁・文書管理システムの導入【効率化】

(1) 候補者

総務部情報公開・法制課 総括主任 吾田 昌則
主任 森下 優紀



(2) 成果

- ・電子決裁・文書管理システムの導入に際し、企画から導入まで多くの業務を遂行
令和4年4月からの稼働に向け、庁内外の関係者と協力しながら約8か月間で導入準備を完了

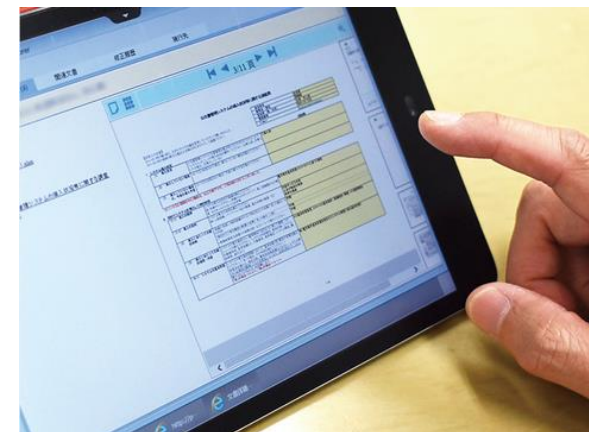
予算要求▶システムの調達▶機能の洗い出しと現行の事務・組織体制との調整
▶運用方針および操作マニュアルの作成▶文書規程および文書分類の見直し

他県では契約から導入まで概ね1年半程度かかる様子

- ・システム導入により、ペーパーレス化やテレワークがますます促進されることが予想されると共に、より適切な公文書管理（検索性・保存性に優れた電子管理）が可能となる

(3) クレドの実践ポイント

- ・業者から示された導入工程を見直し、短期間で効率的に導入を実現するとともに、電子決裁の円滑な促進のため、本県の事務の実態に則した的確な運用方針等を策定（効率化）



とにかく使ってみよう！RPAを全庁展開【効率化】

(1) 候補者

地域戦略部統計情報課	企画主査	向川	友博
	企画主査	枘谷	浩和
	企画主査	内田	亨



(2) 成果

- ・全庁的な業務効率化を推進するため、RPAソフト「Power Automate」を導入。メールの自動返信や支払処理の自動化を職員個人が設定できるようになった。同時に、[RPAの実践研修](#)や[デモ動画](#)により各担当者を支援。（研修参加者等によるRPA実践により年間約2,100時間が削減）。
- ・また、別のRPAソフトWinActorを活用し、電子申請システムで受け付けた申請情報を基にした台帳作成や支払い処理を自動化するRPAを構築。
- ・併せて[県庁職員用MS365学習サイト](#)構築し、RPAも含めMS365活用のための学びを提供した。

(3) クレドの実践ポイント

- ・RPA開発は、県庁内の内製化を進め、全庁的な活用を実現。同時に職員全体の改善マインドを醸成。
- ・Teamsチャンネル「[RPAかけこみ寺](#)」により、トラブルや相談にスピード対応。職員のやる気を支援。
- ・RPA構築時には、詳細な解説を設定。この手法は、事務引継ぎ時に業務の停滞を大きく軽減できることから、今後のRPA構築時の手本となる。

航空レーザ計測データ活用による林業DXの推進【効率化】

(1) 候補者

福井農林総合事務所 林業部 林業・木材活用課 主査 海野 真

(2) 成果

- ・ 森林の間伐計画作成にあたり、航空機から山林への航空レーザ照射により得られた、客観的で高精度なデータを活用し、林業DXを大きく推進。(県内で初の取組)
- ・ 必須だった現地調査が必要最小限となるほか、資源量の把握、作業道ルート等、詳細な図面等による説明が容易となり、地元所有者との合意形成がスムーズに進み、事業着手までが加速化した。
(現地調査から地元との合意形成までの所要時間が約4割(約1000時間)削減)
- ・ また、林業従事者の負担軽減、計画的な主伐・間伐による木材生産の向上、災害時の早期対応も可能に

(3) クレドの実践ポイント

- ・ 分かり易いデータ整理や、使いやすいまとめ方などを比較検討し、データをどう活用し、提案につなげるかを手探りで模索(創意工夫)
- ・ データ精度の検証も要する中、データ誤差は従来手法である現地調査で補足し、より精度の高い提案につなげた(挑戦)

